

# 守りの装置 示す城の実像

守りの装置ということ  
でいうと、秋田県の大鳥  
井山遺跡もこの時代の城  
の実像を考える手がかり  
です。大鳥井山遺跡は大  
規模な堀をめぐらし、鳥  
海柵と同様に本格的な城  
だったとこれまでの調  
査・研究で分かっています。

掘現場で見つかった  
のは柵の柱穴がどう並ん  
でいたかということだけ  
ですが、柵が張り出した  
り、オーバーラップして  
いたのり意味を、城郭  
考古学の視点から読み直  
すと、実はすごい発見  
館でした。

て復元分析しました。  
鳥海区域は、まだ発見  
されていないI字状の堀  
があった可能性を指摘で  
きます。原添下区域で見  
つかっているI字の堀に  
相当するものがあるよう  
に、航空写真では判読で  
きそうです。しかし、す  
でに段丘に近いところで  
いくつか発掘しており、  
あまり明確な痕跡が見つ  
からないとのこと。  
今後の調査に期待したい  
と思います。

大鳥井山遺跡の堀は、  
二重になっていた部分が  
多く見られました。堀を  
二重にしたことで、堀と  
堀との帯状の空地を城道  
にして、そこを歩かせて  
城内に土橋や木橋で連絡  
するようにしていたと復  
元できます。

発掘現場で見つかった  
のは柵の柱穴がどう並ん  
でいたかということだけ  
ですが、柵が張り出した  
り、オーバーラップして  
いたのり意味を、城郭  
考古学の視点から読み直  
すと、実はすごい発見  
館でした。

段丘を巧みに生かした②  
そうした地形に加えて人  
工の堀や柵を付加して城  
として強固な構造を実現  
した——と、結論づけら  
れます。

二重にした堀の間を歩  
かせて城内に入るように  
した守りの工夫は、柵を  
オーバーラップさせて守  
りを固めた鳥海柵の出入  
り口と同じ考え方と位置  
づけられます。鳥海柵と  
大鳥井山遺跡の発掘成果  
から「後三年合戦絵巻」  
が描いた守りの仕組み  
は、絵巻事ではなく当時  
最先端の防御装置だった  
と位置づけられるので  
す。金ヶ崎町がしっかりと  
丁寧に鳥海柵を発掘して  
きたことが、謎に包まれ  
た11世紀の城の実像を解  
き明かしました。

鳥海柵で、わざわざ柵  
をオーバーラップさせて  
いたのは、たまたまそう  
なったのではなく、沢か  
ら攻め上って来る敵をい  
かに効果的に撃退するか  
という、高度な守りの設  
計を施していたからで  
す。鳥海柵は自然地形を  
巧みに生かし、効果的な  
守りを実現した優れた城

個々の詳細については  
今後の発掘調査の進展に  
よるが、発掘成果を加味  
した航空写真の判読から  
は、①規模の大きな沢や

城の出入り口を真っす  
ぐ入るようにするより  
も、柵を互い違いにして  
城道を屈曲させた方が守  
りの力が強くなりまし  
た。これは城にとって重  
大な進化でした。柵と柵  
の間、堀と堀の間を歩い  
て来る敵を、正面に加え

て側面から弓矢や石で反  
撃できたからです。  
真っすぐ進んでくるル  
ートでは、向こうも正面  
こっちも正面になるの  
で、互角に戦って守るこ  
とになりました。城道を  
屈曲させると、敵が道を  
ターンするたびに、敵の  
側面に対しても矢を射た  
り石を投げつけたりして  
反撃できました。

千田 嘉博 (せんだ・よしひろ)  
奈良大学文学部文化財学科教  
授。1963年、愛知県生まれ。  
奈良大学文学部文化財学科を卒業  
後、名古屋市見晴台考古資料館学  
芸員、国立歴史民俗博物館助教授  
を経て現職。

## 金ヶ崎の国指定史跡「鳥海柵跡」

3

### 考察 全盛期の中心的建物

2017年度シンポジウムより

講演 千田 嘉博氏 (奈良大学教授)

## 「前九年合戦と鳥海柵」 III



鳥海柵跡で得られている発掘成果の重要性を強調する千田嘉博教授